

2022
6月

月次 39レター

毎月発行するお客さまへのお知らせレターです

第214号①【基準日 2022年5月31日】



🌸 社長メッセージ



調整局面だからこそ『継続は力なり』



ありがとう投信株式会社
代表取締役社長 長谷 俊介

皆さま、いつもありがとう投信をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。早いもので今年も6月になり暑さが厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか？先月から東京都心のオフィス街では人出が戻ってきていて、通勤電車の込み具合もコロナ前とほとんど変わらなくなってきています。ようやく新型コロナパンデミックの出口が見え始めてきたように感じます。

さて、弊社ではコロナ禍の中、皆さまの安全を最優先にして対面セミナーの開催を見送っておりましたが、6月より約2年半ぶりに再開していくことにいたしました。まずは6/18に札幌で開催いたしますので、是非ご参加頂ければ幸いです。今月以降、徐々に様子を見ながら他の開催地でも順次セミナーを開催していく予定です。また、引き続き無料個別相談(オンライン対応可)については随時ご相談受付をしておりますのでご利用頂ければ幸いです。

インフレ高進と利上げ・金融引締めによる景気後退懸念により乱高下するマーケット

先月のマーケットですが、中国でのロックダウンの影響やロシアによるウクライナ侵攻の長期化によるサプライチェーンの混乱や供給制約によるエネルギー、原材料、食糧価格等が高騰するインフレ高進・長期化リスクが高まる中、アメリカ小売大手の決算内容が悪かったことなどをきっかけに、景気後退懸念からリスクオフの流れとなり、米国成長株を中心に世界株式市場は月初から中旬にかけて大きく下落しました。後半には過度な懸念が和らいだことにより大きく反発して前半の下落分を取り戻す相場展開になり、株式市場は大きく乱高下するボラティリティの高い、まさにジェットコースターのような値動きの1ヶ月になりました。



為替相場については1ドル130円台を付けたあと、一時126円台まで戻しましたが、ECBも米国に続いて金融緩和の正常化に向けて利上げをしていく見通しが示されると再び円安傾向になりました。

そのような中でありがとうファンドは月間で-0.4%の下落となりました。世界株は-0.0%の下落となり、相対的に出遅れました。参考までに日本株TOPIX配当込みについては+0.8%の上昇となりました。

また、月中の投資行動としては、大きく下落した局面でアバディーンEM小型株ファンドと金ETF(GLDM)に追加投資いたしました。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

今後の見通しについてですが、ロシアによるウクライナ侵攻が長期化して先行き不透明な中、供給制約等による原油や天然ガスなどのエネルギー価格や小麦などの食糧・原材料・資源価格の高騰による物価上昇は今後も継続していく可能性が高く、インフレ高進・長期化リスクを抑えるための中央銀行による利上げや金融引締めが、景気後退につながるリスクには十分な警戒が必要だと思われます。マーケットは引き続き乱高下するボラティリティの高い不安定な相場展開になると思われます。

調整局面だからこそ『継続は力なり』

世界株式市場はコロナ禍の金融緩和による過剰流動性相場の中、昨年末まで米国株を中心に史上最高値を更新し続けてきましたが、今年は一転して高値からの調整局面を迎えております。米国ナスダック指数は昨年末から5月末まででドルベースで22.8%下落しており、ありがとうファンドも昨年末から5月末までで13.2%下落いたしました。

個別銘柄の中には期待先行で買われて割高になっていたものもあるので、今回の調整局面は適正なバリュエーション調整であると考えられます。

昨年から資産運用を始められた方は、上昇相場から一転しての下落調整相場に一喜一憂して不安になって積立投資を中止してしまったり、もっと下がるのではないかと怖くなって下がったところでファンドを売却換金してしまった



方もいらっしゃるかもしれませんが、こういう調整局面で積立投資を止めてしまったり、売却換金してしまうのは非常にもったいないことだと考えます。

将来のための資産運用で今すぐに資金が必要でないのに怖くなって売却換金してしまうとそこで損益が確定してしまいます。

マーケットは上がり続けることもなければ、下がり続けることもありません。上がった、下がったを繰り返していきます。また、上に下にも行き過ぎることがよくありますが、時間が経てばやがて適正価値に価格が修正されていきます。長期の時間軸で見れば、株式市場は企業の利益成長との相関が高く、企業利益が持続的に上昇して価値が高まっていけば長期的な株価上昇が期待できると考えます。

積立投資によるドル・コスト平均法は、投資タイミングを時間分散することで平均取得単価を平準化させることができますので、下落して基準価額が下がった局面は、バーゲンセールのように同じものが安い価格でたくさん購入できる投資機会を提供してくれることになります。そのため、下落した調整局面で積立投資を続けることがお客様の将来の運用リターンの向上につながってくると考えられます。

資産運用で成功するために大切なことは、今回のような下落調整局面でも慌てず冷静になり資産運用のゴールに向かって淡々と継続していくことです。

弊社は良い時も悪い時も皆さまと一緒に伴走していければと思っておりますので、先行き不透明な調整局面だからこそ『継続は力なり』という言葉思い出して、日々の相場変動に一喜一憂せずにゴールに向かって資産運用を継続して参りましょう！ 今後ともありがとう投信を何卒よろしくお願いいたします。

🌸 積立投資のススメ！

長期投資には、コツコツと分散しながら長期に渡って購入する「定期積立サービス」がおすすめです♪

「定期積立サービス」とは

…毎月決まった日にお客様が決めた金額を、自動で購入してお客様の資産をコツコツ積み立てていくやり方です。引落とし手数料も無料♪お忙しい方にもおすすめの投資方法です。



①『無理なく続けられる』

お手元にまとまった資金がなくても、毎月少しずつ積み立てることで大きな資産へとつながっていきます。貯金感覚で続けていながら、複利効果でリターンチャンスとなります。



②『リスクを分散』

定額での購入で基準価額が高い時に少なく、安い時に多く投資することができます(ドル・コスト平均法)。相場がいい時もよい時も投資を続けることで、平均買付単価を低く抑える方法です。

③『時間分散』

タイミングを分けることで、リスクを分散することができます。時間を味方につけることで、長期でじっくり投資を続けることができます。

期間	平均取得単価	損益
1年	26,932円	▲6.5%
3年	21,833円	+15.4%
5年	20,254円	+24.4%
10年	15,814円	+59.3%
初回(2004年10月)から	12,344円	+104.1%



タイミングを見計らうのではなく、
時間を味方につけていきましょう！

投資信託をいつ買えばよいか？とのお客様の声が多いですが、投資信託は、タイミングではなく、時間での分散が効果的です。長期で常にタイミングを計ることはとても難しく、かなりの労力を必要とし、それでも確実にいいタイミングで買える保証はありません。

それよりも、ゆっくりと長い時間をかけて、コツコツ投資していくほうがはるかに続けやすく買付単価を平均化されることで、分散の効果が得られます。

＜ご参考＞毎月1万円積立した場合		
期間	投資額	評価額
1年	12万円	11万2238円
3年	36万円	41万5345円
5年	60万円	74万6238円
10年	120万円	191万1471円
初回(2004年10月)から	212万円	432万6300円

2022年5月31日現在(基準価額: 25,190円)

※上記表は毎月同一金額を継続して積立した場合の平均取得単価となります。
※積立による購入は将来の収益を保証、基準価額下落時における損失を防止するものではありません。
※計算過程で出る端数の処理等、損益比率計算過程において簡略化した計算式を用いています。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目録見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

セミナーのお知らせ

6月より約2年半ぶりにセミナーを再開いたします！

お申し込みは弊社HPまで♪ (<https://www.39asset.co.jp/html/seminar/index.htm>)

セミナータイトル	開催日	開催地	時間	講師
先行き不透明な今だから伝えたい『資産運用で大切なこと』	6月18日 (土)	札幌	13:30～ 15:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)

【セミナー概要】 先行き不透明な今だからこそ伝えたい『資産運用で大切なこと』

ようやく出口が見え始めてきた新型コロナパンデミック、ロシアのウクライナ侵攻による地政学リスクの高まり、そして、世界的な資源価格、原材料価格高騰によるインフレ高進リスクが高まる中、米国の利上げ金融引締めにより、世界の株式市場は年初より大きく調整しており、ボラティリティの高い相場が続いています。

このような先行き不透明な状況の中、『資産運用で大切なこと』について、ライフプランと目標設定の重要性とともに、皆さまにわかりやすくお伝えしたいと思います。この約2年半の間、新型コロナ感染症対策のため、皆さまの安全最優先でセミナー等対外活動全般を制限していたので、セミナーを開催することができませんでしたが、この度ようやく再開できることを大変嬉しく思っております。是非この機会にご参加頂ければ幸いです。

皆様にお会いできるのを楽しみにしております！

ありがとう投信株式会社
代表取締役社長 長谷俊介

毎月定期購入サービスのスケジュール

今後のスケジュールになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取扱いとなりますのでご了承ください。

	【新規で定期購入を申込】 【引落し口座変更】	【定期の引落とし金額を変更】 【定期引落としを中止】	【引落日】	【買付申込日】	【約定日】 (ファンドの購入日)
2022年 6月分	5月2日(月)	5月25日(水)	6月6日(月)	6月14日(火)	6月16日(木)
2022年 7月分	6月3日(金)	6月24日(金)	7月6日(水)	7月14日(木)	7月19日(火)
2022年 8月分	7月5日(火)	7月27日(水)	8月8日(月)	8月17日(水)	8月19日(金)
2022年 9月分	8月4日(木)	8月25日(木)	9月6日(火)	9月14日(水)	9月16日(金)

ありがとうファンド売買申込不可日のお知らせ

下記の売買申込不可日にお申込みされた場合、自動的に翌営業日以降の受付となりますのでご注意ください。

6月	6日(月)	聖霊降臨祭	ルクセンブルクの銀行休業日
	20日(月)	奴隷解放記念日	ニューヨーク証券取引所休業日
	23日(木)	建国記念日	ルクセンブルクの銀行休業日
7月	4日(月)	独立記念日	ニューヨーク証券取引所休業日
8月	15日(月)	聖母被昇天祭	ルクセンブルクの銀行休業日



ありがとうファンドのリスク及び手数料等について

リスク	当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様のご投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますし、ファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また元本及び利息の保証はなく、預金保険の対象でもありません。
手数料	申込手数料・換金手数料・信託財産留保金はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年 0.99% (税抜 0.9%) 以内の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年 1.55% ± 0.2% (概算)] ※当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
その他費用	ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税を含む)及び税金等の費用は信託財産から支払われます。また、その他、信託事務の処理に要する諸費用、監査費用、受託会社の立替えた立替金の利息等についても、信託財産の毎月末加重平均残高が 120 億円以上の場合には、諸経費のうち 100 万円(税抜き)までは信託財産から支払われます。※実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

※リスク・費用等の詳細につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。目論見書のご請求は、ありがとう投信株式会社 カスタマーサービス部まで。【〒101-0047 東京都千代田区千代田 2-15-9 フリーコール 0800-888-3900】

【レポートで使用している指数の注記】 騰落率は、FACTSETよりデータを参照し、弊社にて計算しております。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。S&P500種指数(S&P500)に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI に帰属します。

■R&I ファンド大賞について

R&Iファンド大賞は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

<免責事項 | Disclaimer>

リフィニティブ・リップパー・ファンド・アワードは毎年、多くのファンドのリスク調整後リターンを比較し、評価期間中のパフォーマンスが一貫して優れているファンドと運用会社を表彰いたします。

選定に際しては、「Lipper Leader Rating (リップパー・リーダー・レーティング)システム」の中の「コンシスタント・リターン(収益一貫性)」を用い、評価期間3年、5年、10年でリスク調整後のパフォーマンスを測定いたします。評価対象となる分類ごとに、コンシスタント・リターンが最も高いファンドにリフィニティブ・リップパー・ファンド・アワードが贈られます。詳しい情報は、lipperfundawards.comをご覧ください。Refinitiv Lipperは、本資料に含まれるデータの正確性・信頼性を確保するよう合理的な努力をしていますが、それらの正確性については保証しません。

